

## 絶滅したはずの甲殻類 生きた「オオスナモグリ」日本初展示 !!

伊豆・三津シーパラダイス（住所：静岡県沼津市、支配人：植田 行宏）では、これまで化石などが知られているだけで、絶滅種ではないかと考えられていた甲殻類「オオスナモグリ」の生きた状態での展示を、日本の水族館では初めて開始しましたので、下記のとおりお知らせいたします。



### 記

1. 展 示 期 間 展示開始日 2021年8月9日（月）～ ※展示終了時期未定  
※生物の状態によっては、急きよ展示を中止する場合があります
2. 展 示 場 所 新施設「みとしーラボ」内の展示水槽
3. 展 示 生 物 オオスナモグリ（全長約7cm）1個体
4. 「スナモグリ」の仲間について  
スナモグリの仲間は、十脚目アナエビ下目に分類される甲殻類で、干潟や砂泥底に深い巣穴を掘って暮らしており、その種類によっては1メートルを超える深さの巣穴を作ることとも言われています。「バケジャコ」などとも呼ばれ、クロダイ釣りなどで餌とされています。  
体の甲の部分は柔らかいですが、ハサミ脚はとても硬いので、化石として発見されています。
5. 「オオスナモグリ」について  
「オオスナモグリ」は、関東の太平洋側から沖縄にかけての、地質時代区分で中期更新世～完新世の地層から化石が確認されているだけで、絶滅したと考えられてきました。そのような中、2016年に高知県土佐市で、2017年には静岡県沼津市の当館付近の河口で、それぞれこれまでに知られていないスナモグリが捕獲され、千葉県立中央博物館 動物学研究科長 駒井智幸氏らが分析したところ、「オオスナモグリ」の可能性が高いことが分かり、最終的に「オオスナモグリ」として同定されました。
6. 展示個体について  
今回の個体は、2021年5月に静岡県より採集許可を特別に取得し、当館付近の河口より飼育員が捕獲したもので、個体の画像や同種と思われる標本などを用いて、千葉県立中央博物館 動物学研究科長 駒井智幸氏に依頼し、「オオスナモグリ」と同定していただきました。  
2021年7月17日にオープンした新施設「みとしーラボ」内の「バックヤード」コーナーに水槽を設置しています。水族館で生きた状態で展示されることは国内初の取り組みとなります。

以 上